

# 子育て支援充実で「暮らしたくなるまち」へ

## 子ども医療費助成を拡大・気持ち伝えるアプリで SNS 相談

市は、「子ども医療費制度」の助成対象年齢を18歳までに引き上げるとともに19歳～22歳には入院費の自己負担分について新たに助成対象とする。また、子どもが自分の「気持ち」と「健康」をタブレットのアプリを用いて発信し、SNSでの相談機能と組み合わせ、いじめや虐待などの事象の早期把握・対応につなげる仕組みづくりに本格的に取り組む。今年6月から実証実験で行っていたが、子どもが直接相談できるツールとしての有効性を確認し、令和5年度から市内の全小中学校で展開する。

子育て・教育分野での市の取り組みが、民間団体が主催するアワードの受賞が続いている。11月11日にはマニフェスト大賞で最優秀グッドアイデア賞を受賞。18日には「日本ICT教育アワード」で全国ICT教育首長協議会会長賞を受賞。公民連携の手法やICTを効果的に活用した取り組みが評価されたもの。今後もこれらの手法や技術を積極的に活用し、子育て、子育て環境を充実させることで、子育て世帯が「暮らしたくなるまち」づくりをさらに推進する。

### ★子ども医療費助成を拡大

現行制度では助成対象年齢は15歳までのところを18歳まで拡大。あわせて、19歳から22歳までを対象に、一時的に大きな負担となる入院費の自己負担分について助成を行う。入院費の助成は府内で2例目。さらに、市がこれまで独自で実施していた多子世帯へ向けた支援としての世帯での月額上限設定や、入院時の食事療養費助成も継続することで、府内オンリーワンの取り組みが実現する。条例改正等の上令和5年8月から開始予定

<問い合わせ> 医療助成課 電話 072-841-1359、FAX 072-841-3039

### ★気持ちの可視化から SNS 相談につなげるシステムを本格実施

小中学校から配布しているタブレットを使い、専用アプリから子どもたちが自分の「気持ち」と「健康」を「良い・そこそこ良い・普通・あまり良くない・悪い」の5段階で送信。担任の先生などがそれを確認して、気になる子がいた場合には声掛けするなど早期からの対応につなげる。同アプリ内にはSNSでの相談ツールも備え、家族や親に言い出しにくい悩みを相談できる機能も設ける。

この仕組みは今年6月28日から9月30日まで2小学校2中学校の全児童生徒2,183人を対象に公民連携による実証実験を行ってきたもので、SNS相談としての有効性などを確認したため、令和5年度から全小中学校で本格的に実施する。



<問い合わせ> 子ども青少年政策課 電話 072-841-1375、FAX 072-843-2244  
児童生徒支援課 電話 050-7105-8048、FAX 072-851-2187

## ★子育て・教育部門での入賞続く

### (1) マニフェスト大賞で最優秀グッドアイデア賞

11月11日、マニフェスト大賞実行委員会が実施する第17回マニフェスト大賞において最優秀グッドアイデア賞を受賞。受賞した取り組みは、昨年度に実施した子ども食堂と食材寄附者をDXでつなぐ「子ども食堂DX実証実験」で、全国の子ども食堂に共通する社会的課題に対し、産・官・学の分野を超えた多くの事業者・団体がステークホルダーとして関わったプロジェクトとして評価されたもの。実証実験は令和4年2月3日～3月31日の期間で実施。市では今後、この実験から得た成果や課題を整理し、多くの関係者とのネットワークを活かしながら、新たな可能性を検討していく。



Manifesto  
Awards



### (2) 「日本ICT教育アワード」で全国ICT教育首長協議会会長賞

11月18日、第5回日本ICT教育アワードにおいて枚方市のICTを活用した教育の取り組みが「全国ICT教育首長協議会会長賞」を受賞した。子どもたちに必要な資質・能力を育成するために、タブレット端末の効果的な活用を目指して令和3年3月に作成した「枚方版ICT教育モデル」や教育委員会で運営するポータルサイト

「GIGAスク！ひらかた」「まなViVA！ひらかた」、市内全校が参加するICTに関するワーキンググループの活動が主に評価された。



<お問い合わせ>

子ども青少年政策課 電話 072-841-1375 FAX 072-843-2244

教育研修課 ICT推進グループ 電話 050-7105-8051 FAX 072-851-9335